



2019年5月15日

各 位

会 社 名 株式会社ワンダーコーポレーション  
代表者名 代表取締役会長兼社長 内藤 雅義  
(JASDAQ・コード番号：3344)  
問合せ先 取締役管理本部長 宮本 正明  
(TEL：029-853-1313)

### 特別損失の発生、業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2019年3月期決算において特別損失（構造改革関連費用及び減損損失）を計上する見込みとなりましたので、その概要をお知らせするとともに、2018年11月14日に公表しました2019年3月期（2018年3月1日～2019年3月31日）の連結業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

#### 記

##### 1. 特別損失（構造改革関連費用及び減損損失）の計上

当社は、前年3月よりRIZAPグループ株式会社の連結子会社となり、グループの様々な商材やサービスを活かした「高収益ハイブリッド型店舗」への転換を進めており、これまでの事業構造からの転換を果たすべく、既存店舗の改装を中心に様々な取り組みをしてまいりました。

しかしながら、エンタメ市場全体における市場縮小が数年来継続しており、RIZAPグループ全体の構造改革の方針が策定されたことを受け、2019年3月期決算において「構造改革関連費用」を特別損失として約3,900百万円計上する旨、2018年11月14日の「特別損失の発生、業績予想の修正に関するお知らせ」において開示し、その内容に基づき第3四半期決算において特別損失3,369百万円を計上いたしました。

この第3四半期における「構造改革関連費用」の内訳といたしましては、商品評価損等の計上が主でありましたが、第4四半期において、不採算事業・店舗からの撤退に関連する費用を主とする内容として1,486百万円を追加の特別損失として計上するものであります。

この度の、不採算事業・店舗からの撤退に関連する費用等につきましては、RIZAPグループ全体の構造改革の方針に基づき、当社グループの事業・店舗関連資産等を将来の投資回収可能性を勘案した上で、特別損失としての費用処理をしており、主にWonderG00事業において653百万円、WonderREX事業において331百万円、新星堂事業において161百万円、TSUTAYA事業において186百万円、その他155百万円を計上しております。

以上のとおり、当社の収益構造改革を早期に進めることが当社の経営再建に不可欠であることから、2019年3月期決算において構造改革関連費用として特別損失4,855百万円を計上することといたしました。

なお、この他に「固定資産の減損に係る会計基準」に基づく固定資産の投資回収可能性を検討した結果、転貸物件や店舗等において34件を対象とする減損損失695百万円を計上しております。

## 2. 連結業績予想の修正について

2019年3月期通期連結業績予想数値（2018年3月1日～2019年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回予想 (A)	百万円 76,530	百万円 790	百万円 740	百万円 △3,230	円 銭 △427.29
今回予想 (B)	72,117	453	451	△5,159	△695.84
増減額 (B-A)	△4,413	△337	△289	△1,929	—
増 減 率 (%)	△5.8	△43.0	△39.2	—	—
(ご参考) 前期実績 (2018年2月期)	73,139	481	475	△448	△80.33

※前期実績に対し今期は13ヶ月の変則事業年度となります。

## 3. 個別業績予想及び前期実績との差異について

2019年3月期通期個別業績予想数値（2018年3月1日～2019年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前期実績 (A)	百万円 57,787	百万円 286	百万円 304	百万円 △448	円 銭 △80.40
今回予想 (B)	56,323	336	320	△4,714	△635.84
増減額 (B-A)	△1,464	50	16	△4,266	—
増 減 率 (%)	△2.6	—	—	—	—

※前期実績に対し今期は13ヶ月の変則事業年度となります。

## 4. 修正の理由

### (1) 連結業績

2019年3月期の連結業績予想につきましては、利益面においてWonderG00事業の年末商戦における売上増に伴う利益増や、新星堂事業での不採算店舗閉鎖に伴う利益改善、WonderREX事業の店舗出店による売上伸長等により前年対比で一定の改善が見られたものの、新規事業であるフィットネス事業の第4四半期におけるFC加盟店数が当初想定分を大きく下回ったことや、エンタメ市場全体の縮小に伴うWonderG00事業でのゲームソフトや書籍、音楽ソフトの売上高の減少及び粗利高の減少により、売上高、営業利益、経常利益の予想数値を下方修正し、親会社株主に帰属する当期純利益については、上記の構造改革関連費用として特別損失が発生することにより予想を下回る見通しとなりましたので、2019年3月期の連結業績予想を修正するものであります。

なお、特別損失として発生する構造改革関連費用4,855百万円につきましては、親会社のRIZAPグループ(株)では国際財務報告基準を採用しているため、営業利益段階にて計上されます。

### (2) 個別業績

2019年3月期の個別業績予想につきましては、上記の「1. 特別損失（構造改革関連費用）の計上」にありますように、エンタメ市場全体における市場縮小が数年来継続しており、RIZAPグループ全体の構造改革の方針が策定されたことを受け、2019年3月期の個別決算において「構造改革関連費用」を特別損失として4,266百万円計上いたしました。なお転貸物件や店舗等において27件を対象とする減損損失607百万円を計上いたしました。

これにより前期実績の親会社株主に帰属する当期純利益に対し、2019年3月期決算の親会社株主に帰属する当期純利益が大きく減少する見通しです。

(注)本業績予想については、現時点で入手可能な情報及び合理的と考える一定の前提に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。

以 上